

『カクキューの八丁味噌を愛した著名人』

～ 山本 鼎 ～

1882年(明治15年)～1946年(昭和21年)
愛知県岡崎市出身。版画家。洋画家。教育者。

妻は作家・北原白秋の妹。長男の山本太郎は詩人。

母方の従弟に、村山槐多(画家・詩人)、嶺田丘造(官僚)がいます。

1904年(明治37年)与謝野鉄幹主宰の雑誌「明星」に「漁夫」を発表。絵を描き、版を彫り、刷るという一連の作業を1人で行う創作版画を実践し注目を浴びました。

1907年(明治40年)石井柏亭、森田恒友らと美術文芸雑誌「方寸」を創刊し、版画・小説などを発表しました。



山本鼎 (上田市立美術館 所蔵)

1919年(大正8年)長野県上田市で児童自由画教育を提唱。クレヨンとパステルの双方の良さを兼ねた描画材料クレパスの開発にあたり助言を与えました。また農民が農閑期に木彫や刺繍など工芸品を作って売り、生活を安定させるようにと農民美術運動を提唱しました。

長野県上田市立美術館では、版画芸術をさらに発展させ独創性・芸術性を追求した作品を求め、また、若手作家の登竜門となることを目的として「山本鼎版画大賞展」が開催されています。

山本鼎は八丁味噌の愛好家で、大正初期にフランスのパリへ渡った際には入居草々に両親宛てに「八丁味噌を送ってほしい」という内容の手紙を出しています。

鼎は、大きなホタテの貝殻を鍋にしてコンニャクと牛肉、ネギを八丁味噌で煮た寄せ鍋が晩年までの大好物でした。また、八丁味噌を煎餅のように平たくのばして火にあぶり、酒の肴にしました(「山本鼎の手紙」P23 参考)。

当社史料室には昭和時代に愛知社から頂いた展覧会の案内状が残されていて「山本鼎」の名前が記載されています。

また、山本鼎の従弟にあたる嶺田丘造から17代早川久右エ門宛に送られた昭和時代の年賀状も保管しています。

肅啓 時下春暖の候愈々御清祥大慶至極に存候 陳者本
 會第十一回展覽會を左記の通り會催致候に就ては會開初
 日を以て招待日と相定め申候間萬障御繰合せの上御家族
 御同伴御清覽の榮を賜り度此段御案内申上候 敬 具
 當日御差支の節は開期中御隨意に御來觀被下度候尙其節には此狀封筒のまゝ御持參願上候

會場 名古屋市鶴舞公園内美術館
 期日 五月四日ヨリ全月十日迄

昭和九年四月 日 愛知社

愛知社同人

服部有恆 藤井達吉
 富田范溪 小堀四郎
 太田一彩 朝蔭其明
 渡邊正太郎 佐分眞
 川崎小虎 清水義正
 加藤靜兒 毛利有聲
 加藤顯清 森村教武
 長野埜志 森田沙夷
 山本鼎

殿

昭和9年4月 愛知社からの展覽会の案内状 (当社所蔵)

拜啓

陳者來る六月七日より九日まで名古屋市
 榮町丸善支店樓上に於て愛知社同人近作展
 覽會を開催可致今回は全部豫約により製作し
 來れる作品のみにて遺憾ながら御賣約には應
 じ兼ね候へ共其点惡しからず御了承の上何卒
 萬障御繰合せの上ゆるくと御來觀の榮を得
 度奉懇願候 敬具

昭和十三年六月三日

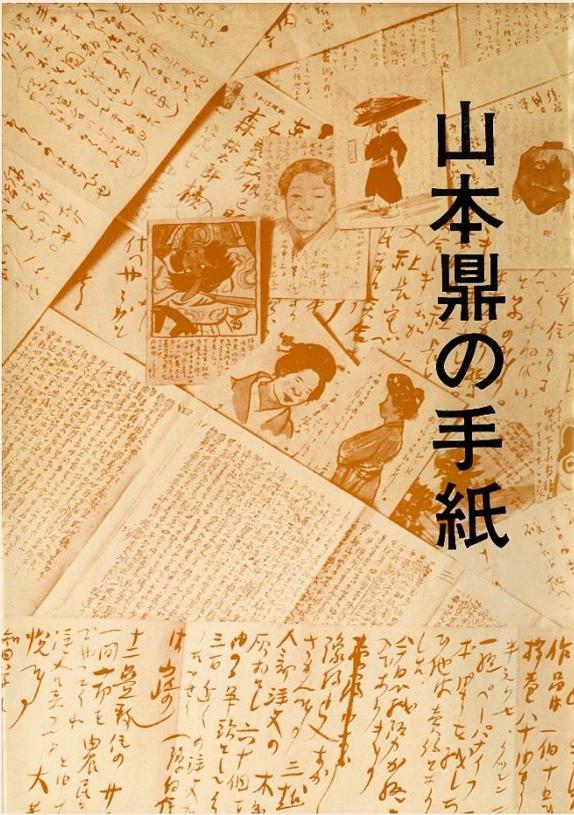
愛知社

愛知社同人

(イロハ順)

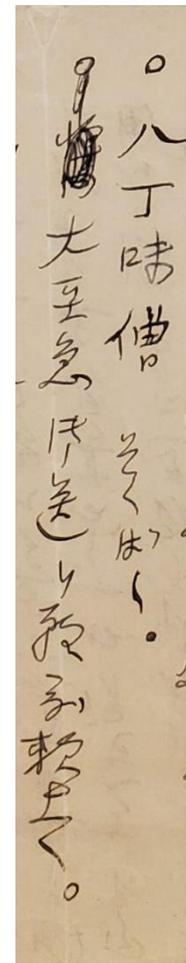
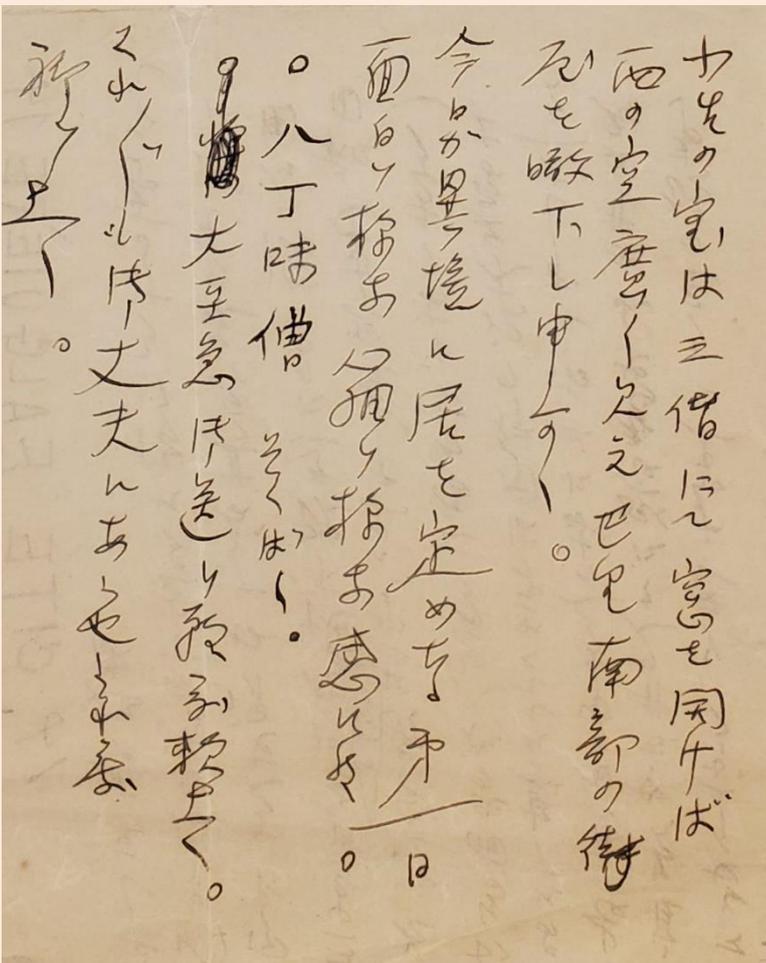
日本畫部 服部有恆 太田一彩
 川崎小虎 清水有聲
 森田沙夷 森村稻門
 西洋畫部 渡邊正太郎 加藤靜兒
 山本鼎 水野義正
 彫塑部 加藤顯清 朝蔭其明
 毛利教武
 工藝部 長野埜志

昭和13年6月3日 愛知社からの展覽会の案内状 (当社所蔵)



- 大正元年 8 月 24 日、パリに渡り入居して早々、両親宛てに「八丁味噌 そくばく 大至急御送り願度頼上候」(=八丁味噌をたくさん大至急で送ってください)と封書を出している(書籍 P23) ※手紙の現物画像は下図参照。
- 大正 2 年 10 月 23 日、パリから両親宛てに「味噌は八丁味噌を願度候」(=味噌は八丁味噌をお願いします)とハガキを出している(書籍 P52)

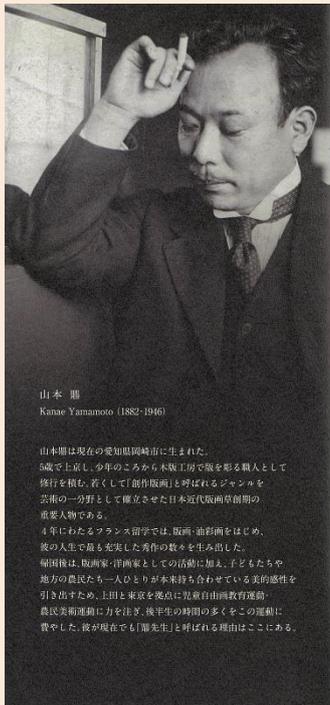
「山本鼎の手紙」(上田市教育委員会、昭和 46 年 10 月 8 日発行)



○ 八丁味噌 そくばく

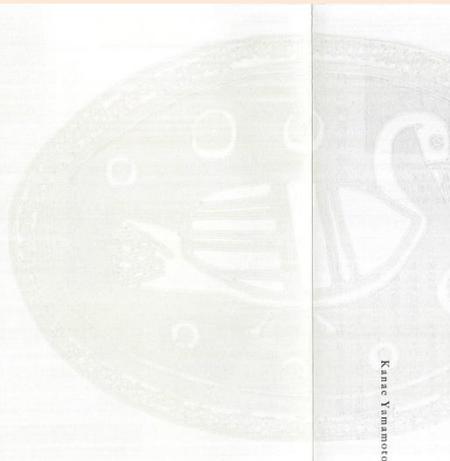
大至急御送り願度頼上候

大正元年 8 月 24 日に山本鼎が両親に宛てた手紙の一部
(上田市立美術館 所蔵)



山本 鼎
Kaneko Yamamoto (1882-1946)

山本鼎は現在の愛知県岡崎市に生まれた。5歳で上京し、少年のころから木版工場で版を彫る職人として修行を積み、若くして「創作版画」と呼ばれるジャンルを芸術の一分野として確立させた日本近代版画草創期の重要人物である。4年にわたるフランス留学では、版画・油彩画をはじめ、彼の人生で最も充実した創作の数々を生み出した。帰国後は、版画家・洋画家としての活動に加え、子どもたちや地方の農民たち一人ひとりが本来持ち合わせている美的感性を引き出すため、上田と東京を拠点に児童自由画教育運動・農民美術運動に力を注ぎ、後半生の時間の多くをこの運動に費やした。彼が現在でも「鼎先生」と呼ばれる理由はここにある。



Kaneko Yamamoto

山本 鼎



上田市立美術館

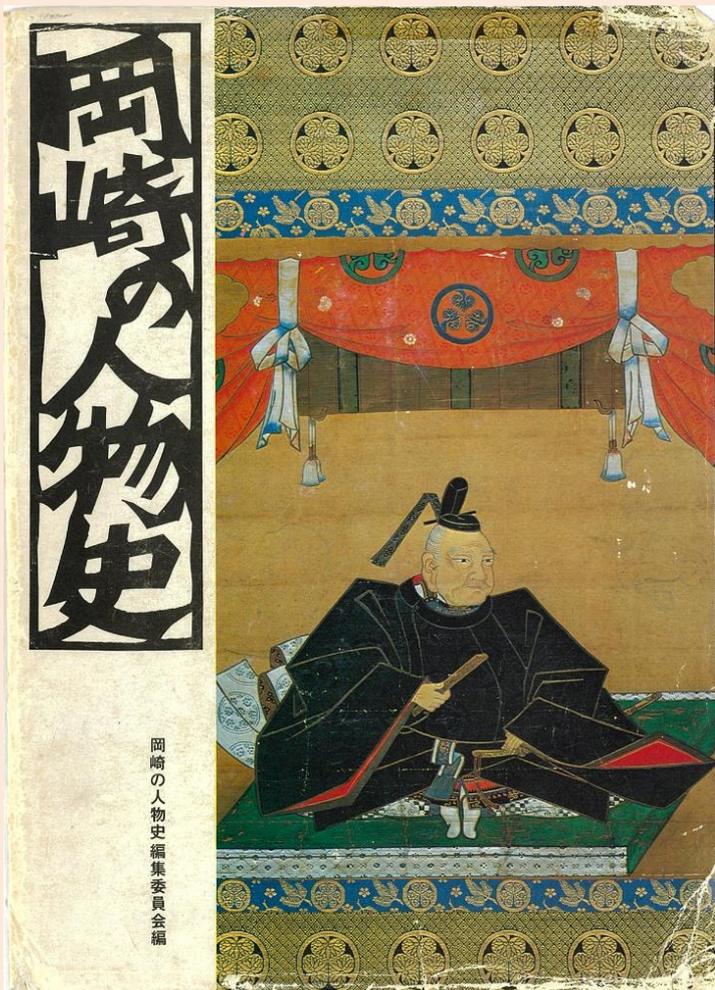
〒386-0025 長野県上田市天神3-15-15
TEL: 0268-27-2300
<https://www.santomyuze.com/>

自分が直接感じたものが尊い
そこから種々の仕事が生まれて来るものでなければならぬ

年 譜

- 1882(明治15)年 愛知県岡崎市に生まれる
- 1887(明治20)年 父の医学修業のため、一家で東京へ転居
- 1892(明治25)年 桜井虎吉の工房に入門し、木口木版の修業に専らむ。
- 1898(明治31)年 父一郎が神川村大塚(現上田市大塚)に医院開業。これが鼎と上田との関わりのはじまりとなる。
- 1902(明治35)年 創作版画の代表作(漁夫)を発表。
- 1904(明治37)年 創作版画の代表作(漁夫)を発表。
- 1906(明治39)年 東京美術学校卒業。雑誌「東京パック」で風刺画を担当
- 1907(明治40)年 石井柏亭、森田恒友と創作版画雑誌「方寸」を発行以後、創作版画運動に邁進する。
- 1912(明治45)年 フランス留学に旅立つ。木版画、絵画を制作。
- 1916(大正5)年 スウェーデン、ロシアを経て帰国。モスクワで農村工芸展示館、児童画の展覧会を見学し、感銘を受ける。
- 1917(大正6)年 日本美術院洋画部同人。北原白秋の妹・いよ子と結婚。東京・田原に新居を構える。
- 1918(大正7)年 日本創作版画協会設立。会長就任。
- 1919(大正8)年 児童自由画教育運動、農民美術運動を始める。
- 1921(大正10)年 東京・自由学園の美術科主任となる。
- 1922(大正11)年 足立源一郎、権原健三郎、小杉敬庵らと春陽会設立
- 1923(大正12)年 日本農民美術研究所設立
- 1935(昭和10)年 帝展参事となる。
- 1936(昭和11)年 新文展洋画部審査員
- 1939(昭和14)年 日本農民美術研究所が閉鎖抗議となる。
- 1942(昭和17)年 脳溢血により群馬県榑木町榑木ふじや旅館で倒れる。
- 1944(昭和19)年 病氣療養のため東京・大森の自宅から上田市に転居。
- 1946(昭和21)年 10月8日永眠、64歳

上田市立美術館パンフレット



岡崎の人物史 編集委員会編



山本 鼎

み込んだ。一家再建の夢と負担が、家を継いだ長女たけの研養子一郎にかかったのであろう。一八八七(明治二〇)年、母たけも六歳の鼎を連れて上京し、一郎と共に北千住に住んだ。しかし、一郎の書生としての収入だけでは妻子を養うことができなかった。たけは女中奉公をして急場をしのいだ。こうして一家の住居が転々と変わったため、鼎は小学校を卒業していかない。鼎が十一歳の時、木版作家の桜井虎吉の内弟子となり、ここで版画を学んだ。後年、鼎が自分で描き、自分で版を彫り、自分で刷る創作版画の創始者となった基はここにあった。

鼎が十九歳の時、父が長野県上田で医院を開業するに至って、やっと生活の見通しがつくようになったが、それで借金がなくなった訳ではなかった。その点を考慮して、鼎と岡崎の人々との関係をみてみよう。

今朝一月十三日山の御封書を拝見致し候。御体はお丈夫らしく、ひとまず安心は致候。家計の事に就て非常に憂懼の様子、寒中を冒して母子岡崎へ出むかれしとの事、事態よくよくの事と嘆息仕候。常日頃我等一家を馬鹿にする福田氏に借金申し入るるは、御両親もさぞおつらく、小生も実に残念を感じむしう貸してくれねばいいがとも思ふ程に候。併して順を追ふて思へば、皆小生の不孝に原因するようにて苦痛至極に存候。(略) 大正二年二月二日、パリから長野県への函宛封書 「山本鼎の手紙」

鼎は一九〇六(明治三九)年に東京美術洋画科専科を首席で卒業した。失念に悩む鼎は、父一郎の励ましで負債を更に積んで、一九二二(大正元)年フランスへ渡った。若山牧水は、旅立つ前の鼎の様子を、山本君が仏蘭西へ行くといふことが自分の感情に与ふる影は何であろう。山本君も僕と殆ど同じ様な

「岡崎の人物史」(「岡崎の人物史」編集委員会(代表:岩月栄治)、昭和54年1月5日発行)

※村山槐多

愛知県岡崎市出身。画家。詩人。

山本鼎は槐多の絵を描く才能を見抜き油彩の画材一式を与え、画家になる事を勧めました。2019年(令和元年)6月1日～7月15日におかざき世界子ども美術博物館で「没後100年岡崎が生んだ天才村山槐多展」が開催されました。

《紙風船をかぶる白画像》1914年 個人蔵

【初公開】《房州風景》1917年 個人蔵

没後100年
岡崎が生んだ天才
むらやま かいだ

村山槐多展

衝撃の新発見、約100点を一挙初公開!!

最初に描いた油絵

【初公開】《雲湧く山》1911年 個人蔵

【初公開】《カンナ》1915年 個人蔵

《バラと少女》1917年 東京国立近代美術館蔵

2019年6月1日(土)～7月15日(月・祝)

開館時間：午前9時～午後5時(最終の入場は4時30分まで)

休館日：毎週月曜日(ただし7月15日は開館)

観覧料：一般 800円(640円) / 小・中学生 100円(80円)

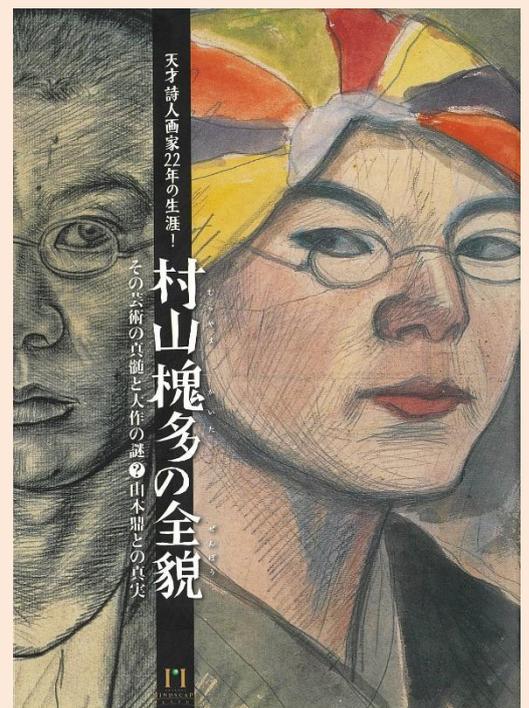
* ()内は団体(20名以上)料金 * 岡崎市内の小・中学生は無料

* 各種障がい者手帳を持参する者1名につき当該手帳持参者とその介助者1名は無料

主催 おかざき世界子ども美術博物館

おかざき世界子ども美術博物館
The World Children's Art Museum in Okazaki

おかざき世界子ども美術博物館「村山槐多展」リーフレット

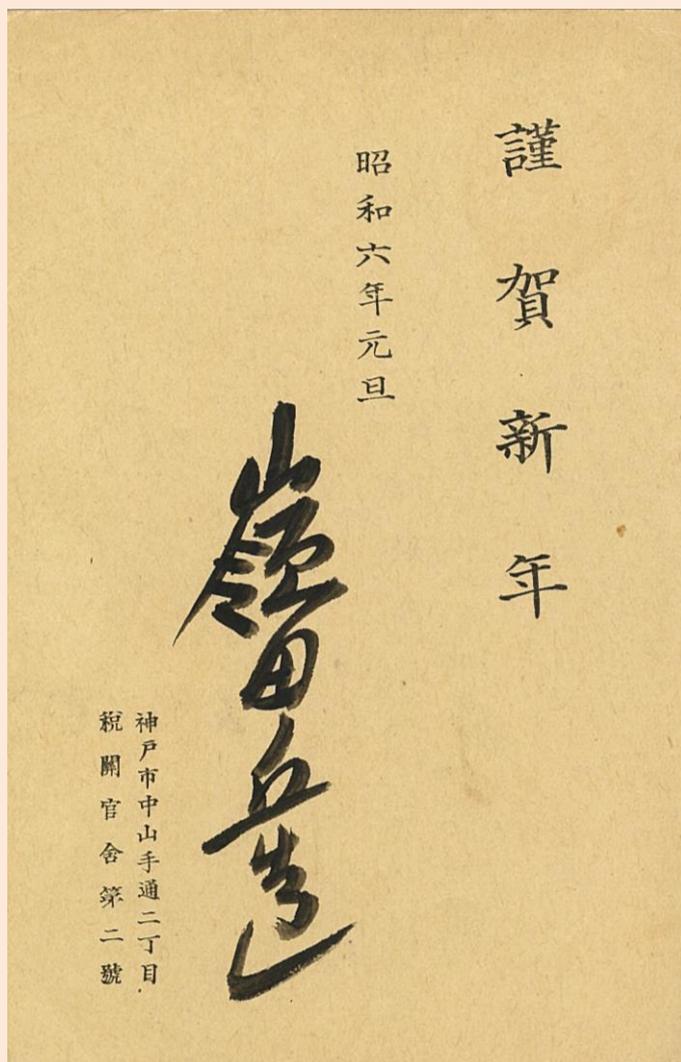


岡崎市美術博物館「村山槐多の全貌」
書籍表紙(平成23年12月3日発行)

※嶺田丘造

愛知県岡崎市出身。官僚。

山本鼎は嶺田丘造とも度々手紙のやり取りをしています(「山本鼎の手紙」より)。
当社史料室には昭和6年に嶺田丘造から17代早川久右エ門宛に送られた年賀状が保管されています。



嶺田丘造からの年賀状（昭和6年元旦）（当社所蔵）